

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 30 October 2003

**背景:** 腰椎は脊椎徒手整復療法が推奨されることが多く、費用がかかる疾患である。既報のシステマティック・レビューおよび診療ガイドラインでは、腰痛における本療法の有効性については一致した結果が得られていない。

**目的:** 脊椎徒手整復療法とその他の療法を比較した上で最近の質の高いランダム化比較試験(RCT)から得られたデータを分析に組み込むことにより、脊椎徒手整復療法の適用に関連する矛盾点を解決し、有効性に関する既報の推定内容を更新すること。

**検索戦略:** 背部レビューグループの検索法を用い、それぞれの開始時点から2000年1月までのCochrane Central Register of Controlled Trials、MEDLINE、EMBASE、CINAHLを電子検索するとともに、既報のシステマティック・レビューに掲載された参考文献をスクリーニングした。

**選択基準:** 腰痛患者を対象として脊椎徒手整復療法が評価され、少なくとも1日の追跡と1項目以上のアウトカムが設定されたランダム化比較試験(RCT)。

**データ収集分析:** メタアナリシスの全段階でレビューアとなる2名の著者が、公表された文献から独立してデータを抽出した。比較治療は、擬似、一般開業医による従来型のケア、鎮痛薬、理学療法、運動、腰痛予防教室、または無効または有害なこともあると判断された療法(牽引、コルセット、床上安静、在宅ケア、局所ゲル薬、治療非施行、ジアテルミー、最小限のマッサージ)全体の7カテゴリーに分類した。

**主な結果:** 39件のRCTを抽出した。急性疼痛または慢性疼痛、短期間と長期間の疼痛および機能に関するメタ回帰モデルを作成した。急性腰痛患者において脊椎徒手整復療法の方が良好であったのは、擬似療法(100mmビジュアルアナログスケールにて10mmの差[95%CI 2~17mm])または無効または有害なこともあると判断された療法と比較した場合のみである。脊椎徒手整復療法には、一般開業医によるケア、鎮痛薬、理学療法、運動、あるいは腰痛予防教室をしのぐ、統計的または臨床的に意義のある利点が認められなかった。慢性腰痛患者での結果は同等であった。放散痛、試験の質、整復者の職業、整復単独またはその他の療法との併用には、結果に対する影響が見られなかった。

**レビューア見解:** 脊椎徒手整復療法が急性腰痛または慢性腰痛の患者に対する治療として、標準的な他の治療よりも優れているとのエビデンスはない。

**Citation:** Assendelft WJJ, Morton SC, Yu Emily I, Suttorp MJ, Shekelle PG. Spinal manipulative therapy for low-back pain. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2004, Issue 1. Art. No.: CD000447. DOI: 10.1002/14651858.CD000447.pub2.

**Clib issue No.:** 2005 issue 4

**CRG名:** Back

\* **ご注意:** この日本語訳は、試験的翻訳(Draft 翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。